

話題(そのⅢ)

NEA データバンク委員会
第1回会合 出席報告

原 研 更 田 豊治郎

1. 会議の名称・日時

The First Meeting of NEA Data Bank Committee, 1978年3月7日(火),
OECD本部(パリ)

2. 出席者

Austria	Dr. H. BRUNEDER Osterreichische Studiengesellschaft fur Atomenergie GmbH Vienna
Belgium	Dr. H. CEULEMANS CEN/SCK, Mol
Denmark	Mr. L. HANSSON Forsogsanlaeg Riso Roskilde
France	Dr. René JOLY Centre d'Etudes Nucléaires de Saclay Mr. P. LAFORE Centre d'Etudes Nucléaires de Saclay Mr. C. PHILIS Centre d'Etudes Nucléaires de Bruyeres- le-Chatel
Federal Republic of Germany	Mr. W. HÖBEL Kernforschungszentrum Karlsruhe
Greece	Miss INGLESSIS Delegation of Greece to OECD
Japan	Dr. T. FUKETA Japan Atomic Energy Research Institute, Tokai-Mura

Netherlands	Dr. M. BUSTRAAN Netherlands Energy Research Foundation, Petten
	Dr. H. P. STRUCH (Vice-Chairman) Netherlands Energy Research Foundation, Petten
Portugal	Miss A-M. BRANDAO Delegation of Portugal to OECD
Spain	Dr. T. IGLESIAS Junta de Energia Nuclear Madrid
Sweden	Mr. S. LINDE AB Atomenergi Studsvik
Switzerland	Dr. J. BRUNNER (Chairman) Eidgenössisches Institut für Reaktorfor- schung, Würenlingen
United Kingdom	Dr. B. PATRICK (Vice-Chairman) United Kingdom Atomic Energy Authority, Harwell
	Dr. L. UNDERHILL United Kingdom Atomic Energy Authority, Risley
United States	Mr. S. ROSEN Delegation of the USA to OECD
Commission of the European Communities	Dr. H. J. HELMS Joint Research Establishment Ispra, Italy
	Dr. H. O. LISKIEN Joint Research Establishment Geel, Belgium
Nuclear Energy Agency	
Mr. I. G. K. Williams	Director General
Dr. W. Hannum	Deputy Director General
Dr. J. Miida	Deputy Director
Mr. J. A. G. Rosén	Head, NEA Data Bank
Dr. H. Derrien	Deputy Head, NEA Data Bank
Dr. L. Garcia de Viedma	Deputy Head, NEA Data Bank
Dr. W. Häussermann	Head, Nuclear Development Division

Dr. P. Johnston NEA Data Bank
Mr. P. Reyners
Mr. E. Silvera
Dr. N. Tubbs Nuclear Science Division (Secretary)

なお、上記リストの外、NEAデータバンクにコンサルタントとして短期滞在中であった原研長谷川明氏が傍聴した。

3. 会議の内容

- 1) 開会：NEAのDirector General Mr. I. G. K. Williams が仮座長につき開会の挨拶（将来、NEAデータバンクがNEAの他の計画との協力関係を強めるべきことが強調された）の後、chairmanにDr. J. Brunnerを選び、vice-chairmanにDr. B. Patrick（旧CCDN関係）とDr. H. Struch（旧CPL関係）を選んだ。
- 2) 委任事項：当委員会の委任事項（Terms of Reference；資料（非添付）SEN/DATA/M(77)1, Annex（1977年12月））は、NEA運営委員会の1977年12月7日の会合で定められている。
- 3) NEAデータバンクの長Mr. Rosenから、NEAデータバンクがCCDN及びCPLから引き継いだ(a)中性子データの国際的交換、(b)中性子データ文献索引(CINDA)の維持、(c)ANLのU. S. Code Center, ORNLのRadiation Shielding Information Center, 及びIAEAが関係する計算機プログラムの交換、等に関する外部との協約について簡単な説明があった。米国との情報交換の協定は切れており1978年に更新の必要がある。この関連で、下記の11)を参照。
- 4) NEA運営委員会で、Euratom Joint Research Centresと無料の協力関係を維持することと、暫定期間についてギリシャ、トルコ及びポルトガルが割引きの分担金で加盟することが合意されたことが報告された。
なお、オーストラリアとイタリアは未加盟で、この会合にも欠席。
- 5) Dr. W. Hannumから、(Mr. Williamsの挨拶にもあったことであるが)過渡期が過ぎたら、NEAの全体の活動に関連した問題への寄与を期待したいが、その具体的役割について今回議論する予定はなく、1年ぐらいの内に問題をもっと明確に議論する必要が出てくるので、あらかじめ考えておいてほしいとの発言があった。将来計画についての参考までの提案として、nuclear resources（これについては、会合の最後でDr. W. Häussermannから説明があった——資料省略）、燃料サイクル関係などのdata basesの整備が挙げられる。

しかし、NEAデータバンクの役割の拡大が旧CCDNと旧CPLの役割に影響しないことを前提とすることは充分認識していることがDr. Hannumからも表明された。この表明があったので、私もこの点の念を押すつもりであったが取り止めた。

- 6) 旧CPLの liaison officers 的なものをデータ・サービスの方でも置いてはとのMr. Rosen の提案は、その必要はないとの結論になった。
- 7) NEAデータバンクの人事については、旧CPL関係は特に問題は無いが、旧CCDN関係は経験の深いDr. A. Schett (昨年12月末), 土橋氏(本年3月中旬), Dr. H. Derrien (本年6月1日付, 旧CCDN関係のリーダー), Dr. A. Schofield (本年末)が、それぞれ()の日付で辞めたか、あるいは辞めることになっており、旧CPL関係に比してパーマネントのポストが少ないことなど、悩みが大きく、特に旧CCDN関係のリーダーのポストについては、各国委員を通して広く人材の推薦を依頼すべきことが指摘され、空席に関する情報をこの委員会内にも出来るだけ早く流すべきことが述べられた。Dr. Hannumからポストは任期付きを原則としたいことが説明された。
- 8) NEAデータバンクの目下の最優先業務は転換のためのプログラミングとdata baseの作成であり、第2が利用者へのデータ・サービスとデータの編集で、CINDAの改善は3rd priorityであることが合意された。
- 9) マンパワーの現状を考えると、中性子データのための編集に関しても中性子データの種類や範囲について優先度をつけることが必要となる可能性があるが、この辺の議論は次の会合(1978年6月予定)に残された。
- 10) 4センター会合(Four-Centre meetings; 4センターとは、旧CCDN, IAEAの核データ部門, 米国の国立核データセンター, 及びソ連オブニンスクの核データセンター)でNEAデータバンクに対して出された勧告(特に予算的影響のあるもの)は、承認を得るために当委員会に提出されるべきことが決った。
- 11) NEAデータバンクと米国のセンター(複数)との間の計算機プログラムの交換:(上記3)参照)

この問題については、1977年12月7日のNEA運営委員会会合において、米国代表から米国とNEAとの間の計算機コードの交換の現状に不均衡(米国の出超)があるとの注意の喚起があったこと、及び上記3)に記した協定の更新が関係している。

これに関し6カ国の代表から表明があり、日本からは「旧CPLの我々の liaison officerからの資料によると、CPLにおける米国のコードの登録数は全登録数の丁度半分近く

reasonable と思われ、また日本のコードの登録数は米国のその10%より僅かに多い程度で、これも unreasonable ではないと思われる。もっとも、運営委員会における米国代表の発言はこういう単純な数値を引き合いにしているのではなからう。日本から提供されているコードの他の加盟国のものに比べた up-to-dateness ということについては何とも言えないが、up-to-dateness をより良くするようには努力したい。なお、このことは商企業よりも公的機関においての方が比較的容易であろう。』との意味の発言をした。米国のコードと他のコードとの請求数の比較も行なわれた。

結論としては深刻な問題との受取りは無かったと思われるが、Dr. Hannumから Secretariat の立場として、各国から提供されないコードについて何か特別な条件があるなら、各国が交換から除外している criteria を知りたい、そうすれば誤解が避けられるとの提案があり、各国から criteria を伝えることが action となった。ただし、これに答えることは義務ではない。

12) 次回会合の予定日：1978年6月8～9日。

4. NEA データバンク及びCISIへのグループ・ツアー

— 3月8日(水)、OECD本部前から大型バスでSaclayへ。

上記会合の出席委員のほぼ全員が参加。

— NEA データバンクを見学。建物を改築中。

— CISI の Saclay センターを見学。

CISIとはCompagnie Internationale de Services en Informatique の略で、政府資本の計算会社である。Saclay, Cadarache, Grenobleなどにセンターがあり、英国やベルギーにもネットワークが延びている。米国を除けば最大の計算会社とのことである。SaclayのCISIのセンターは、現在IBM 370/168, IBM 360/91, IBM 360/75, CDC 7600-6400, CDC 6400 Cyber 172, CDC 6600, EAI 8900-8400-8800 (hybrid) を有し、極めて大規模なものである。NEA データバンクはPDP 11/70をターミナル計算機としてSaclayのCISI センターにリンクしている。